

BIOTECHNICA 2005

14th INTERNATIONAL TRADE FAIR FOR BIOTECHNOLOGY
HANNOVER, GERMANY • 18-20 OCTOBER 2005

2005-26
ドイツ産業見本市日本代表部
2005年10月

国際バイオテクノロジー見本市

「バイオテクニカ2005」結果報告

「バイオテクニカ」は分野の飛躍の推進力

ヨーロッパ最大のバイオ見本市に専門ビジター約13,000人
外国人ビジターの割合が過去最高の28%に
バイオ業界は、明るいムードへと転換
市場成熟製品やソリューションが潜在成長力を掘り起こす

国際バイオテクノロジー見本市「バイオテクニカ2005」が去る10月18日から20日の3日間、ハノーバー国際見本市会場で開催され、盛況の内に閉幕した。ヨーロッパ最大のこの第14回国際バイオテクノロジー見本市には、分野の計872社が出展、展示スペース12,853㎡に製品やサービスを展示した。今回は約13,000人の専門ビジター（前回の10%増）が訪れ、バイオテクノロジーの最新の製品や開発情報を入手した。外国からのビジターは28%（3,600人）に上り、これはこれまでの新記録（9%増）を樹立した。ドイツ産業見本市株式会社のステファン・キューネ副社長は、今年の「バイオテクニカ」を重要な転換年であったとし、「急増したビジター、上昇した国際性、産業バイオテックソリューションへの更なる関心がこのことを実証している。『バイオテクニカ05』は、業界内外に積極的なムードを生み出した。」と述べた。今回の「バイオテクニカ」はこの成功で、他の競合見本市との間の隔たりがさらに大きく開いた。

日本からの「バイオテクニカ05」の出展社は、次の通り。（現地法人、代理店からの申込は含まず）
日本板硝子(株)、大阪府、(株)カネカ、日本フツソ工業(株)、(株)ピークル、
(株)フジキン、(株)プロテインクリスタル、静岡県、スター精密(株)、
「バイオ・ジャパン」/日経BP

今回の見本市での話題の中心は、製品の市場成熟、売れやすい製品およびサービスであった。ドイツバイオテクノロジー産業連盟（DIB）の会長、Prof.Dr.ペーター・J・W・シュタドラー氏は、当連盟にとっても今年の「バイオテクニカ」は業界上昇の再スタートに成功した現われであるとする。「『バイオテクニカ』の雰囲気は非常によく、再び好転し始めている分野の現在のムードを正確に反映している。明らかに目に付いたのは、当見本市の国際性が上昇したことであった。展示にも特別プログラムにも、非常に多くのビジターが訪れた。」

出展社の傾向

最多出展国としては、ドイツのバイオテック特別地域の共同出展であるドイツ バイオレギオンを含むドイツの出展社（585社）を別として、最も大きい外国出展国はイギリス（623㎡、31社）、次いでスイス（408㎡、33社）、アメリカ（256㎡、25社）、ロシア（249㎡、45社）、オランダ（234㎡、20社）スペイン（216㎡、18の社）だった。

今回の見本市の経過と成果に対する出展社の評価は「大満足」から「非常に満足」まで様々であった。見本市全般の傾向としては、コンタクト及び商談の結果が見本市の開催前に一般的な業界状況やここ数年の発展から期待されていたよりも確実によかった。

「バイオテクニカ05」では、ドイツおよびインターナショナルのパビリオンが多く形成されたが、パビリオンでの展示は、3日間にわたり一貫してよかったと評価された。スイスのパビリオンで展示を行ったスイスバイオテック協会のCEO、ドメニコ P.アレキサキス氏は、「成功率を最高10までとすれば、スイスの出展は9を達成した。このリーディング見本市に出展しているスイスのバイオテック企業にとって、このようなコンセプトを有する見本市は将来も必要不可欠の潜在性を持つものであると信じている。今回の当社のコンタクトは数も質も前回の2003年よりもずっとよかった。」と語った。大阪の共同出展にとっても、「バイオテクニカ」は大きい成功であった。大阪府のマネージャー明瀬隆雄氏はこう語った。「パビリオンでの多くの新規コンタクトの他に、我々のワークショップに60人以上のすぐれた専門家が参加してくれた。『バイオテクニカ』は、当社のバイオ技術の潜在的力を直接的な対話で国際的なビジターに紹介することができる素晴らしい機会である。2007年は、今回の経験を元により多くの出展社でハノーバーに来ることになる。」

バーデンビュルテンベルグ州のパビリオンオーガナイザーも、「バイオテクニカ05」は大成功だったと述べた。BIOPROバーデンブルグ社(在シュトゥットガルト)社長のDr.ラルフ・キンダーファーター氏はレジュメで、「『バイオテクニカ』では、全体的に非常にポジティブな商談ムードだったと賞賛されるべきである。国際的なコンタクトでも2003年に比べてよりよくなっている。」と述べている。また、ニーダーザクセン州のパビリオンには、バイオレギオンN社の社長、Dr.アルブレヒト・ロイファー氏が、「全ての出展社は非常にいい結果だったと報告している。特に、上昇ムードへの転換がはっきりと感じられた。特に、今年ビジネスの可能性のあるコンタクトベースで感じられた。」と評価した。

ビジター構造

今回の「バイオテクニカ」の傑出した特色として、外国からのビジターが非常な増加を挙げることができる。3,600人の外国人ビジターは前回に比べて9ポイント増の28%で、多くの出展社が商談やビジネスコンタクトにおいて強調したポジティブな発展であり、見本市史上最高である。外国人ビジターの内、アジアだけでも27%、約1,000人の専門家が訪れた。

専門ビジター総数の内、約1,700人は社長、取締役、上級役人であった。決定権保持者に関するアンケート調査結果でも、同じような傾向が窺える。アンケートによれば、ビジター中の約39%(5,000人)が企業や組織の中で「決定的」決定権を持っており、10%の増加を見たことが「バイオテクニカ05」の専門性を裏付ける特徴となっている。

ビジターの関心の中心は、バイオテクノロジーの展示グループであり、次いで調剤/薬と装置であった。

第3回ヨーロッパ バイオテクニカ賞を授与

今回の「バイオテクニカ」の開会式である前夜祭を機会に、ボルフガング クレメント ドイツ経済相よりヨーロッパ バイオテクニカ賞の授与が行われた。この賞の賞金は合計40,000ユーロで、ヨーロッパで最高のバイオ関連の賞金額である。入賞者は3組で、マドリッド在のメディジーン社が1位を獲得して、20,000ユーロの小切手を授与された。2位はスピーデル社(在バーゼル)、3位はパイオン社(在アーヘン)であった。

審査委員長のProf. Dr.ペーター・シュタートラーは、今年の授賞式は著名な講演者やゲストの国際的な参加により大成功を収めた、と語った。さらにこの式典の重要性について、「『ヨーロッ

『バイオテクニカ賞』は、ヨーロッパでのバイオテクノロジー部門における確実に重要な出来事である。」と述べた

バイオテクノロジーのトレンドと製品

「バイオテクニカ05」は、今回もバイオテクノロジー研究の将来を窺う場としての役割を果たした。グローバルな活動を展開している企業や研究機関により、業界の最新トレンドが紹介された。「バイオテクニカ05」での主要な展示物としては、市場参入前にあるインダストリアルアプリケーションのバイオテクノロジー、つまり拡大しつつある“白色”分野の製品とプロセスであった。例えば、一方向リアクターシステムは、サイズに関わらず容易にプロセスマネージメントを可能にする。1回の使用で貴重な文化遺産が環境細菌により汚染されることから保護し、高価な洗浄処理は不要となる。バイオプロセスからの製品を精製するためにも新しい技術が利用できるようになった。例えば、マグネット粒子を使って高価な素材を分離することが可能となった。特にトレンドであるのは、一貫統合ソリューションである。また多くの企業がオーダーメイド有機体製造から工業生産システムまでのトータルプロセスチェーンを提供している。

バイオ技術分野でのロングヒットは“赤色”、即ちメディカルバイオテクノロジーである。従来の活性成分の製造の他に、特に診断法が急速に進んでいる。インフルエンザ、百日咳、結核やBSE等は新しい方法により確実に効率よく検出することが可能で、感度や信頼性も高まり、スピーディに行われることになる。バイオチップスは現在でも、迅速で正確な診断法の開発にこれまで同様中心的な役割を果たしている。近代的な診断法を用いることで、検査で人体に接触する必要性を減少させることにもなる。例えば、腫瘍であるが乳房撮影や生体組織検査の代わりに、今ではバイオ技術の方法で腫瘍がある組織に増えていることを突き止めるだけでなく、正確にピンポイントでその場所まで検出することができる。

さらに、再生医療の部門も研究段階を抜け出した。とりわけ組織培養における模擬循環器系の使用は、生存臓器移植製造に飛躍的な進歩をもたらすものである。

同時開催プログラム

会期中の会場では、企業、バイオテック組織、調査研究所等により多数のワークショップ、フォーラム、パネル討議が開催され、最新のバイオテックの研究成果やトレンドが発表された。出展社が最新の製品や開発をプレゼンテーションする「イノベーションフォーラム」の多様なイベントには、約1,300人の専門ビジターが参加した。ドイツ教育・研究省の特別展にも多くの参加者があり、平均200人に上った。「バイオテクニカ」は今回も、国際バイオテクノロジーの世界でのコミュニケーションおよび情報のために重要な役割を果たすことができた。

次回の第15回国際バイオテクノロジー見本市「バイオテクニカ」は、2007年10月9日から11日に、ハノーバー国際見本市会場で開催される。

お問い合わせ先

ドイツ産業見本市日本代表部（佐々木/村田）

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-51-3-501 株ジェービーエス内

Tel:03-3363-6631 Fax:03-3363-7582 www.hannovermesse.co.jp hannmesejp@asahi-net.or.jp